

令和 8 年度 6 年生全国学力・学習調査 分析

2026.8.5 6年部

I. 正答率

①教科別正答率(%)

	国 語	算 数
桃園小 6年生	60.0	58.0
大分県 6年生	63.0	58.0
全国 6年生	60.9	60.9
差(県・全国)	県▼3.0 全国▼0.9	県±0 全国▼2.9

②教科の観点別正答率

国語 観点別正答率(%)

	知識・技能	思考・判断・表現
桃園小 6年生	62.8	57.3
大分県 6年生	64.5	61.2
全国 6年生	62.0	60.1
差(県・全国)	県▼1.7 全国△0.8	県▼3.9 全国▼2.8

<思考・判断・能力>は、県・全国を下回った。

算数 観点別正答率(%)

	知識・技能	思考・判断・表現
桃園小 6年生	61.5	46.3
大分県 6年生	61.1	48.3
全国 6年生	60.1	45.4
差(県・全国)	県△0.4 全国△1.4	県▼2.0 全国△0.9

<知識・技能>は、県・全国を上回った。

2. 問題別調査結果

①国語 学習指導要領の内容 正答率(%)

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する事 項	我が国の 言語文化 に関する 事項	A 話すこ と・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
桃園小 6 年生	69.8	48.8		65.9	45.1	56.7
大分県 6 年生	69.9	53.6		66.9	45.4	68.5
全国 6 年生	66.8	52.3		65.8	45.7	65.9
差(県・全国)	県▼0.1 全国△3.0	県▼4.8 全国▼3.5		県▼1.0 全国△0.1	県▼0.3 全国▼0.6	県▼11.8 全国▼9.2

【考察】

<知識・技能>

△「言葉の特徴や使い方に
関する事項」は、4問中2問が全国平均を上回った。

- ・「漢字を文の中で正しく使う」→「短い」全国比△7.8ポイント、「不思議」全国比△12.1ポイント
- ・「比喩や反復などの表現の工夫に気づく」→全国比▼1.8ポイント
- ・「話や文章の種類とその特徴について理解する」→全国比▼6.0ポイント

▼「情報の扱い方に
関する事項」は、2問中1問が全国平均を下回った。

- ・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」
→全国比△全国比2.9ポイント
- ・「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解する」→全国比▼9.9ポイント

<思考力・判断力・表現力等>

△「A 話すこと・聞くこと」は、3問中2問が全国平均を上回った。

- ・「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える」
→全国比△2.9ポイント
- ・「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」
→「【動画の一部】の太囲みの部分の工夫として適切なものを選ぶ」全国比△0.2ポイント、
「【動画の一部】の工夫として適切なものを選ぶ」全国比▼2.9ポイント

▼「B 書くこと」は、2問とも全国平均を下回った。

- ・「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開をかんがえる」→全国比▼2.9ポイント
- ・「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」→全国比▼1.3ポイント

▼「C 読むこと」は、2問とも全国平均を下回った。

- ・「目的に応じて、必要な情報を見つける」→全国比▼3.1ポイント
- ・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」
→全国比▼15.4ポイント、無回答23.2%

○漢字は定着しているものの、文章の内容や構造を捉えながら読み、考えたり理解したりすること、条件に合わせて自分の考えを書き表すことが苦手といえる。

②算数 学習指導要領の内容 正答率(%)

	A 数と計算	B 図形	C 測定	D 変化と関係	E データの活用
桃園小6年生	61.6	57.9	76.8	40.2	49.1
大分県6年生	62.3	56.5	77.9	39.1	50.6
全国6年生	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6
差(県・全国)	県▼0.7 全国△0.5	県△1.4 全国△2.6	県▼1.1 全国▼1.3	県△1.1 全国▼0.9	県▼1.5 全国△0.5

【考察】

△「A 数と計算」は、8問中4問が全国平均を上回った。

- ・「数を四捨五入して、概数で表す」→全国比△1.8ポイント
- ・「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくる」→全国比△1.8ポイント
- ・「真分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する」
→全国比△1.1ポイント、無回答率6.1%
- ・「単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える」→全国比△8.7ポイント
- ・「整数と小数の減法の計算をする」→全国比▼4.4ポイント

△「B 図形」は、4問中2問が全国平均を上回った。

- ・「立方体の体積の計算による求め方について理解している」→全国比△11.4ポイント
- ・「直方体の箱の形を構成する面について理解している」→全国比△7.7ポイント
- ・「体積の意味について理解している」→全国比▼6.0ポイント
- ・「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する(A・E)」
→全国比▼2.5ポイント、無回答率9.8%

▼「C 測定」は、全国平均を下回った。

- ・「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める(A)」→全国比▼1.3ポイント

▼「D 変化と関係」は、3問中2問が全国平均を下回った。

- ・「単位量当たりの大きさを求める除法の式を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる」→全国比△6.6ポイント
- ・「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる」→全国比▼8.0ポイント
- ・「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ(A)」→全国比▼1.3ポイント

△「E データの活用」は、4問中3問が全国平均を下回った。

- ・「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」→全国比△10.1ポイント
- ・「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する」
→全国比▼1.3ポイント、無回答率4.9%
- ・「帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取る」→全国比▼4.2ポイント

○大きくポイントを伸ばしている設問もある一方で、問題場면을正しく把握し、公式や計算を使いこなすことが苦手といえる。小数や分数の計算や数直線の読みとりなどの力をつけていく必要がある。

3. 質問紙調査の結果から

(記述のないものは、質問に対しての肯定率を%で表したものの。)

番号	質問事項	桃園小(%)	全国(%)
4	普段(月曜日から金曜日)、1日どれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか。	3時間以上 49.3	3時間以上 37.6
23	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	1時間以上 43.2	1時間以上 49.9
25	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	全くしない 25.9	全くしない 16.0
26	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。	全くしない 33.3	全くしない 26.3
29	あなたの家に、およそどれくらい本がありますか。	0～10冊 22.2	0～10冊 13.0
40	5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	81.5	73.4
53	国語の勉強は好きですか。	55.6	57.4
54	国語の授業の内容はよく分かりますか。	83.9	81.5
61	算数の勉強は好きですか。	55.6	57.6
62	算数の授業の内容はよく分かりますか。	74.0	77.5
70	英語の勉強は好きですか。	45.7	66.7
国1	解答を文章で書く問題に、どのように解答しましたか。	全て最後まで 81.9	全て最後まで 79.9
国2	解答時間は十分でしたか。	足りなかった 43.4	足りなかった 27.5
算1	言葉や数、式を使って、分けや求め方などを書く問題に、どのように解答しましたか。	全て最後まで 81.9	全て最後まで 77.7
算2	解答時間は十分でしたか。	足りなかった 14.4	足りなかった 11.2
6	学校や勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。	週に1回以上 64.2	週に1回以上 75.0
8	自分には、よいところがあると思いますか。	AB 81.5 当てはまる A 25.9	AB 85.6 当てはまる A 43.6
15	学校に行くのは楽しいと思いますか。	80.2	85.7
17	友達関係に満足していますか。	92.6	91.1

4. 学力向上に向けた重点的な取組

(1) 国語

- ・漢字練習については、既習漢字も含め繰り返し練習させていくのと同時に、漢字を使用するということを意識させる。
- ・読み物教材の中で、言葉の意味を確認したり、いろいろな表現の仕方を工夫させたりしながら、語彙を広げ、基本的な言語能力を養っていく。読書、音読も継続的に行う。
- ・文章全体の構成や展開、段落相互の関係について、線を引いたり囲んだりしながら、視覚的に分かりやすい板書を意識する。
- ・図表から読み取れることや感想、授業のふり返りなど、時間内に条件に沿って短く文章に表す学習活動を積極的に取り入れる。

(2) 算数

- ・分数・小数の四則計算は、単元内だけでなく、その都度計算方法を確認し、技能を徹底する。特に小数では、位取りを意識させたノート指導を続ける。計算途中を意識させた指導をする。
- ・公式や計算の手順だけでなく、成り立ちや意味を考えさせたり、式と図表を照らし合わせ解法させたりする授業展開をする。
- ・考え方を説明する記述については、記述の型を提示した練習を取り入れるなど、書くハードルを下げてどの子どもも意欲的に取り組めるようにする。
- ・単元末のまとめには、長文問題や活用問題を取り入れ、いろいろな問題にも触れさせたい。

(3) 質問紙調査

- ・タブレット機器等の使用時間がかかなり長いことがうかがえる。使い方、健康被害も含め、適切な使用を積極的に呼び掛けたい。
- ・学習に対しての意欲が低く、家庭でも関心がない場合がやや多いと考えられる。学校での取り組みを家庭内でも継続できるよう、学年通信等を使いながら呼び掛けていきたい。
- ・自主学習や家庭学習の習慣化については、個々に任せるのではなく、選択しながら取り組めるような課題を出し取り組ませていく。繰り返しの学習や既習内容の学習については、引き続きデジタルドリルを活用したい。
- ・国語、算数ともに、意欲的に解答しようとする子どもが多かった。一方で、解答時間が足りなかったと感じる子どもが特に国語で多かった。時間を決めて短い文章を書く活動に、繰り返し取り組ませていきたい。
- ・自己肯定感が低い傾向がうかがえる。学校では、人間関係づくり(ももちゃんタイム)の取り組みを継続して行っていく。友達関係には満足している子どもがほとんどなので、集団生活を通して達成感を味わえる行事等の活動を積極的に行っていく。